

ひらかわ あらた
平川 新

宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

未来への航路

ビスカイノの隊列

この地の人たちはスペイン人をまだ見たことがなかったため、「我々を見てたいそう驚いていた」とビスカイノは書いている。日本人の服装とはまるで違つコスチュームであるから、驚くのも無理はない。しかも髪の色が異なっていたのはおさらだ。視覚的な異文化体験だといつてよい。

この時期、ビスカイノ一行のほかに仙台領に異国人が来たと思われ、宣教師だと思われるが、個人や少数者だったので、それほど目立ってはいなかった。だがビスカイノ一行はメキシコ副王の使節であり探検隊であったことから、人員も少なくなかった。来日したときの船には書記官や測量士、散髪師、船大工、兵士などが乗り込んでいた。

1611年にビスカイノがメキシコから浦賀に来着し、上陸して江戸城に向かった際、長銃・小銃・国旗・王旗と太鼓をもつた30人の隊列を組んだ。

とある。太鼓のリズムにあわせながら隊列を整え、足並みをそろえて江戸城に入つていった。道筋には見物人の男女が大勢詰めかけてあふれかえったという(『金銀島日本探検』)。ビスカイノによると、これだけの群衆が集まったのは將軍秀忠が自分の威厳を示すために集めたからだという。異国人が日本の將軍に礼を尽くしていることを民衆に見せるためであった。スペイン大使の側は威風堂々たる行進によつてスペインの行列がやってきた。仙台の人たちは「司令官の鼓手の黒人」という記事にも注目しておきた。仙台人たちは行列

30 仙台に来た黒人

インの国威を誇揚したが、日本側は大群衆による出迎えて国勢を印象づけた。スペインと日本の双方が、行列パフォーマンスに国の威信をかけていたのである。民衆にとつても見慣れぬ異国人を見物できる、またとない機会であった。

黒人への関心

仙台にもビスカイノ

あるから、行軍するときの音楽隊である。仙台城に入るときや城下を移動するときには隊列を組み、ドラムの音に合わせて行進したのだらう。

江戸と同じく仙台でも、ビスカイノは派手な行列を見せることでスペインの威信を誇示した。一方政宗は多くの群衆を集めて、異国人が訪問してくるみずからの立場を知らしめた。

のなかでもとくに、ドラムをたたいている黒人に驚いた。人々は黒人を見るために駆けつけたというから、スペイン人以上に黒人に強い興味をもった。

黒人の黒い肌に驚いた人々は、「黒いものを取り去つてやろう」とりたん園より黒坊主参り候、惣の身の黒き事、牛の如し」とある。信長は黒い肌を信用せず、洗い落とさせようとしたという。仙台の住民が見せたのと

「黒人を見世物にして入場料を取れば大きな収入になるだろう」と書いています。アフリカ人を奴隷として商品化した地中海世界という記録がある。



ひらかわ・あらた
昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館館長に就任した。



ポルトガル人に傘をさす黒人召使い
wikipedia commons



南蛮船から荷物をおろす黒人たち「南蛮屏風」狩野道美、
wikipedia commons

東北大学災害科学国際研究所の所長たつを経て、平成26―31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。